



旧暦の小正月の行事 ろうの垂れ方で農作物の豊凶を占う

メインテーマ「時代」

2月19日(火)の夜、沢田地区の神明宮で「ろうそくまつり」が行われた。これは、毎年旧暦の小正月に神明宮の「岩谷堂」と呼ばれるほころの岩肌(ろつそく)を灯し、翌日のロウの垂れ具合で豊凶などを占うお祭りだ。450年以上の歴史があるとされている。今年は、元号が変わることから、「時代」をテーマ

沢田ろうそくまつり



平成31年メインテーマ「時代」(平成から新しい時代へ…)

に掲げ参道の斜面にろつそくで川の流れを表現し、幻想的な雰囲気を出した。また、「たいまつ行列」も行われ、たいまつを持った人たちが登山囃の音色とともに練り歩いた。当日は、市内外から多くの参拝者が訪れ、雪の参道を上った場所にあるほころにろつそくを奉納し、思い思いに祈っていた。三上優一実行委員会会長によると、参拝者は約2500人に上った。



沢田神明宮境内で豊作や健康を祈る様子

豊凶占いの行方

2月20日早朝にロウの垂れ具合による豊凶の占いが行われた。まだ昨晚のろつそくが灯っている岩谷堂のほころの中、大沢勝雄総代は「雨には注意が必要。リンゴ、米とも豊作とはいえないだろう」と語った。



お山参詣保存会による登山囃の音色が響き渡る

五穀豊穰を祈る

1 450年の奇習
沢田ろうそくまつり

幻想的な雰囲気
のなか、家内安
全や合格祈願、
会社の繁栄など
を祈りながら、
ろうそくに火を
ともす参列者。